

千代田界隈のレトロな風景



丹沢山系

いつもなら雪化粧の写真になるのですが・・・

みどりの風



2020.3.1

-NO.258-

人・ひと日記

小林 功

新型のウイルスによる感染症の広まりが世界を震撼させています。中国の特定の地域で一月の下旬に発見され、現時点(2・16)で感染者が七万人、死者が千七百人に達している。日本でも現地からの引き揚げ、隔離、渡航制限、大規模イベントの見合わせ等の水際作戦が展開されています。横浜港で停泊中の大型クルーズ船が象徴的です。

毎日のように状況が悪化しています。感染経路は複雑であり、北海道から沖縄まで広い範囲に及んでいるようです。そして直近では相模原市内の病院でも死亡と感染があったことの情報が発せられました。

文明が入らない未開の地域に文明人が入ると、文明人が持ち込んだ病原菌に対し免疫のない原住民があつという間に壊滅してしまうというドキュメンタリーを見たことがあります。今、最も事態が過酷で、大量に派遣された医療関係者も多くが感染し、犠牲になっていると伝えられる中国の特定の地域で起きていることは大げさではなく、このよう状況を想起させます。

『歴史的にみると新興感染症は世界史的転換点で発生してきた。』と指摘する学説があるようです。『第一次世界大戦期のインフルエンザだけでなく、古代からの天然痘、中世から近代にかけてのペストや十九世紀のコレラの流行は人類の文明圏が拡大する過程で発生した。グローバル化と人間界の自然への介入の深まりによって、従来のヒトと動物の境界が崩れたとき新型ウイルスが人類への新たな挑戦を見せ始める(2/9毎日)』という見方です。

在住中国人が多い欧米各国で今回の感染症への恐怖からアジア人を排除する風潮が強まっているという報道があります。これは福島から避難してきた小学生を「菌の発生源」としていじめの対象にしたり、避難家族の住宅への入居拒否事件があつたことを思い出させます。政府内では外国人の往来を制限し、特に「中国全土を対象にした入国規制」で水際対策を強化することも議論され始めているようです。これから未知のウイルスへの不安から身を守ろうとする意識が外国人、とりわけ中国人に対して向けられることが充分予想されます。戦うべき敵は新型のウイルスであり正しい情報の元で疑心暗鬼にならないよう冷静に考え、対処していく必要があると思います。

発行 社会福祉法人 悠朋会

相模原市中央区千代田 2・4・1

千代田デイサービスセンター

042・751・0672

ヘルパーステーション千代田

042・704・0261

千代田介護支援センター

042・704・0281

児童クラブ いちばん星

080・5865・1586

ホームページアドレス

www.yuhokai-kaigo.com

節分



今年も節分の日には年男・年女の方が袴を着て『福はうち』のかけ声から豆まきが始まり、赤鬼、青鬼にがでてきて、鬼に向かって豆まきを行ないました。

豆まきが終わった後には節分に関するクイズや今年からリニューアルした節分ゲームを楽しみ、おやつ時には恵方巻に似たロールケーキを頂きました。



3月の予定



体重測定	9日(月)～15日(日)
交流会	11日(水)、12日(木)
おはぎ作り	14日(土)、16日(月) 17日(火)
書道	19日(木)
折り紙	19日(木)
誕生会	25日(水)～31日(火)
ダンスボラ	26日(金)
シナプソロジー	28日(土)
民謡	31日(火)



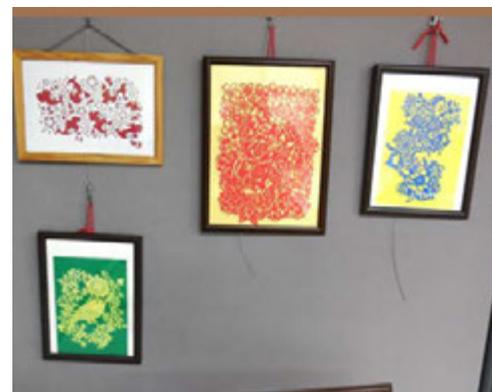
おやつ作り チョコブラウニー



14日のバレンタインの余暇活動の時間に利用者さんみんなでチョコブラウニーを作りました。普段は料理をしない男性陣も積極的におやつ作りに参加されました。工程がいつもより少ないため、ゆっくり楽しみながら作る事が出来ました。

自分たちで作ったブラウニーはとても美味しかったと、好評でした。

2月の交流スペース 渡辺美幸 & 梢 親子二人展



今月の展示はデイサービス利用者の渡辺美幸さんとその娘さんによる展示を行いました。美幸さんは貼り絵、梢さんは切り絵の作品を展示しました。デイサービス利用時や自宅でも時間があれば作品を作っているとの事。色々な色の折り紙を駆使して作っていて、どの作品もとても素敵に出来上がっていました。

思い出多い千葉の奥山



手島 絢子

私の夫は千葉出身。君津市の奥山。イノシシが出て庭を荒らす。

サルが挨拶に来て悠然と干した豆を枝ごと担いで去って行く。



四月ともなると田に水がはられカエルが一斉に鳴きだす。このカエルの声が不思議と煩くなくのどかさを与えてくれる。一面緑の田の苗が風になびく頃私の心は既に山奥の住人となり幸せいっぱいの中に居る。二月の末から鳴き始めた鶯も鳴き方が上手になりメスを探し飛び回っている。鶯の谷渡りもそれは見事な声で響き渡る。緑色を濃くした田の周りにはキジが高い声を張り上げてこれまたメスに存在をアピールしている。



山深く五月の谷川では河鹿が鳴き夕暮れの寂しさが一層深く心に沁みる。この自然の中で主人は育ったのだ。優しい人だった。他界して七年になる。

子どもに恵まれ時間が有ればこの山奥に連れて来ては生活を楽しんだ。

「たまにはきれいなホテルに泊まりたい」と、末の娘が言ったことがある。

主人は、

「田舎にはお金で買えないものが沢山詰まっているんだよ」

と話していたが、その通りだ。

夏になると畑へ連れて行く。収穫したスイカを背負いかごに入れ小高い山から下りて来る。汗をかいて真っ赤な顔をしている三人の子ども。冷たい井戸水でスイカを冷やす。スイカの冷える間、スイカ割りを楽しむ。

賑やかに時間が過ぎる。冷えたスイカを好きなだけ食べ、スイカの種を飛ばす遊びでまた賑わう。



千葉の土は砂地なので素足で遊ぶのには格好の庭だ。砂地で汚れた体を下の川で洗い流し、主人の作った竹の竿で小魚を釣る。夕食のおかずとなる。庭で鯛のカナカナを聞きながらバーベキューを楽しむ。鯛が一日の終わりを告げる。そして夏休みがあつと言う間に過ぎて行く。学校には秋休みがない。残念なことに紅葉思い出があまりない。



冬になり土手の枯草で草スキーを楽しむ。土手で食べる焼きおむすびの味、枯草の匂い、懐かしい。子どもたちは成長し大人となり、私には孫もできた。ここ数年主人の墓参りに揃って出かける。イノシシやサルに加わり鹿も増えた。そのため丘ヒルが出る。孫たちはヒル対策をしてキヤーキヤー言いながらおじいちゃん墓参りをする。長男が二人の子供

(孫)に昔の話を聞かせている。私たち夫婦は、この千葉の自然を原点として、子育てをし、会話を楽しんできた。子どもたちの行動も原点は千葉の山奥にあるようだ。山奥の一つ一つがこの子たちの心の中にも生きていく。その後、家族で千葉以外の旅行を楽しんだが、旅の思い出は千葉の山奥が印象深く忘れられない。改めて主人との出会いに深く感謝する。ありがとう。そして千葉の奥山に乾杯!!



手島 絢子

市内の小学校で教鞭を執った後、重度障害児児童クラブの開設・運営に尽力。児童クラブいちばん星の開設から関わり、指導員として勤務。